

南島原市立小・中学校適正規模・適正配置在り方検討委員会  
第5回検討委員会（会議概要）

日 時	令和8年1月30日（金）	19:00～20:00
場 所	南島原市役所 南有馬庁舎2階 会議室1	
出席者	委 員	13名
	市・事務局	教育長 松本 弘明 教育次長 石川 伸吾 教育総務課長 佐々木 航 学校教育課長（指導主事） 大草 修三 教育総務課教育総務班長 井上 実
欠席委員	1名	
会議次第	1 開 会 2 委員長あいさつ 3 報告書（案）について 4 その他 5 教育長あいさつ 6 閉会	

発言者	発 言 内 容
事 務 局	<開会>
委 員 長	<あいさつ> 事務局に説明を求める。
事 務 局	報告書（案）について、資料に基づき、第4回会議時資料 報告書からの変更点を説明。 【資料】 ・南島原市立小・中学校 適正規模・適正配置について 報告書（案） ・中学校の学校規模別職員配置（例）〈5クラス～1クラス〉
委 員 長	まず、報告書の作り方について、前回の会議では、「検討会で出た意見を報告する」という形で報告書をまとめることとしていたが、事務局からの説明があったように、「検討内容や方向性を追加する」ことについて、ご意見がないか確認したい。
委 員	「異議なし」。
委 員 長	次に、7ページの「4. 学校規模についての検討」についてご意見はないか。

発言者	発言内容
副委員長	報告書(案)の10ページに、「交通計画を含む具体的な再編プランを早急に策定する」とあるが、小学校が4km、中学校が6kmとあるため、事前に通学距離のシミュレートがあった方が良さだろう。そうすると、学校規模の落としどころとしては、③(4地区統合)もしくは④(5・3地区統合)あたりになってくるかもしれない。「通学距離と教員配置などを検討した結果、このプランにする」、というのが言えるため、そうしたデータがあると良い。
事務局	前回までの会議でも要望があったため、今回までに準備したいと思っていたが、間に合わなかった。ただ、第2回の会議資料7ページで提示した距離の目安の図は、参考資料として提示できるだろう。
副委員長	ぜひ、その図を提示してほしい。
委員	距離の目安の図から、小学校は4キロ以内というところだけで見ると、隣町ぐらいまでしか距離を取れないのでは。③か④のプランでいくと、距離的には大丈夫だろうか。
事務局	大きい円は6km、小さい円は4kmであり、おおよそ3つの円で市内をカバーできるような距離になっている。なお、距離だけでなく、通学時間の目安もあるため、約1時間以内で行ける範囲で捉えていけたらと思っている。
委員	極端な話だが、この資料でいくと、おおよそ小学校3校、中学校2校になってくるのか。
事務局	これはあくまでも距離の目安を示すものであり、統廃合の目安ではない。学校規模的には3学級以上が理想ということがある。学校規模と、距離・時間を見ながら、学校数を検討していくことになると思う。
委員	今後10年以内の計画とあるが、北有馬地区だけを考えると、私や周りの意見を含めて、「10年は耐えられない」という意見があった。長くて5年くらいだと。来年の有馬小学校の新1年生は4名のような。当初、6名の入学が見込まれていたが、2名は他校に入学することになったと聞いた。そう判断する親御さんも少なからずいるということをこの場で伝えておく。
事務局	前回までの会議でも、「北有馬地区は、いますぐにでも南有馬地区と一緒になってい」という意見が出されていた。ただ、報告書には市全体のこととして示すため、「5年以内」とは書けない。そこで、できるだけ長いスパンをとって、「10年を一つの目途として期間で再考していこう」という意味で示したいと思っている。当然、地区の状況に応じて前倒しすることなどもあり得る。
事務局	この報告書を受けて、今後、市で具体的な計画を立てていく。今回の報告書で示すのは、市全体の再編が完了するのが10年、ということで捉えていただきたい。
副委員長	本委員会の意見としては、10年以内である程度再編が終わっているというイメージで捉えてよいか。状況によっては各地で問題があるかもしれないが、10年以内に変えていくのであって、その中で大きな流れと小さな流れがあると捉えてよいか。

発言者	発言内容
事務局	その理解で良い。例えば、堂崎小学校と小林小学校の推移を見ても、そのままにしておくで複式学級が発生するため、個別にできるところは先に対応しながら、全体的には10年を目途に再編する形で良いと思っている。
事務局	野田小学校が今年度いっぱい統合するが、それはPTA、保護者からの意見により決まった。今後、そういった動きも出てくると思う。一方で、こちらから学校に働きかけるといったこともあるかもしれない。そういったことを、来年度、市で検討していく。
事務局	報告書案の10ページにも記載しているが、既存学校の単純な統廃合ではなく、様々な角度から全体をみて、集約・再編しましょう、ということを示したい。
委員長	次に9ページの「5. 小中一貫教育についての検討」について伺います。
副委員長	小中一貫教育を通じて学力が向上する、他の市よりも秀でているなど、南島原市の目玉の一つとして扱っていくのが大切。市民のため、子どもたちのために一番良い教育をみんなで考えていくこと。そのためには、さらにプラスのメリットを探していくことが大切。子どもたちにも夢を持ってもらいたい。
委員長	メリットの中に「小学校高学年からの教科担任制の導入」とあるが、これが実現すると、中一ギャップの解消にもつながると思う。また、教員同士も小学校、中学校の枠を超えて、切磋琢磨することができるため、教員にとってもメリットがある、ということを出し出してよいと考える。小中一貫教育は、子どもにとってはもちろんのこと、教員にとってもメリットがある。
委員	毎回、施設老朽化の問題が話題に上がっているが、報告書には、11ページの「学校施設の老朽化などの課題も重なり、」という一文しか入っていない。その点はどうか。
事務局	施設老朽化についても、同じくらいの比重はあると思っているが、集約や再編を進めるにあたって、「子どもたちのことを第一に考える」ということがあったため、施設老朽化を出しすぎるのもどうかと思い、この程度の表現に留めた。
副委員長	「最新の教育環境を整備する」という表現で書いてはどうか。
事務局	「整った環境の中で」ということを、10ページに追記してはどうだろうか。
事務局	委員からの意見の一つとして、本報告書の中に記載させてもらう。
事務局	先ほど、中学校の学級規模に応じた職員配置の話をさせてもらったが、教員の配置基準を考えると、個人的には、3～4学級が理想ではないかと思っているが、先生方の感覚としてはどうか。
委員	2クラスはとても大変。3学年を一人の教員で授業を週に22時間持つというのは厳しい。全科目が揃うのは良いが、科目によって22時間の科目、5時間の科目があるなど、時数の差が出てくる。
事務局	「クラス替えができるから、とりあえず2クラスにしておけば」ということ

発言者	発言内容
	は、子どもにも教員にとっても、あまりメリットがないということか。
委員	<p>2クラスで、5教科で教員1人配置だと大変だと思う。現在、加配で教員が2人入っていることがあるが、そうなると少し余裕が出てくる。</p> <p>一方、4クラスで教員2人だと良いかというのと、一人6クラス持たないといけなくなるため負担が出てくる。ただ、3学年教えるのと、1学年、2学年教えるのとでは、負担の大きさがちがうため、学級数が増える分には良いと思う。</p>
事務局	3クラスか、4クラスかとなると、どちらが良いのか。
委員	配置次第。
委員	2クラスが一番きつい。
事務局	学級数が増え、教員の配置が増えると、校務が分担できるため教員の負担が減り、子どもへの対応時間が増えるという理解で良いか。
委員	その理解で良い。
事務局	小学校ではどうか。
委員	<p>小学校は教科担任制ではないため、クラス数によって、1人当たりの時数は変わらない。小学校の担任は、28時間のうちの20～23時間を持っている。6クラスあれば専科がいるため、専科が残りの数時間を担当する。</p> <p>クラス数が増えると教員も増えるため、学校全体の校務分掌の負担が減り、子どもと向き合う時間が増える。1学年2クラス以上になり、さらに専科が増えれば、1人当たりの時数が減って、負担が軽くなる。</p>
委員	1～6年まで1クラスずつの全6クラスあれば、配置が1人増える。一方、1～6年まで2クラスずつの全12学級だと、追加の配置がないため、教員の負担は大きくなる。
事務局	報告書の中に、「1学年3学級以上の学校規模の維持に配慮する」と記載しているが、小学校、中学校のどちらもその程度の規模が望ましいということで捉えていてよいか。
委員	その認識で良い。
委員長	次に10ページの「6. 適正規模・適正配置の方向性」について伺います。
副委員長	南島原市の都市計画の中でも適正性を考えていくことが必要と思う。学校はまちづくりとも関わってくるため、整合性を考えてほしい。また、コミュニティ・スクールも進められているため、「地域で学校を支える」という在り方についても、文言を入れてほしい。地域の人たちが、自分たちで、まちの学校を残していく、ということを実現できる。
委員	前回の統廃合を振り返ると、平成20年の在り方検討委員会を経て、平成24年に計画が策定され、令和3年に有家地区の統廃合で終えている。これがスタートから13年かかっている。

発言者	発言内容
	そして現在、先の人口減少を見据えて、私たちは何年後の統廃合を考えているだろうか。20年後ぐらいだろうか。
事務局	だいたい15～20年後ぐらいに、維持できるような規模感を考えている。ただし、それを過ぎるとさらに減っていくため、15～20年後の状態を継続して維持するのも難しいだろう。
委員	この先の計画を作成する際に、選択肢が狭まったような印象がある。
委員	まだ先ではあるが、有馬小学校もコミュニティ・スクールの話が挙がっている。現在は一つの地域単体で実施しているが、もし統合することになれば、複数の地域でコミュニティ・スクールを実施していくことになるか。
事務局	基本的にはそうなると思うが、その点については、現在悩んでいる部分である。あまりにも範囲が広すぎるため、コミュニティの捉え方から考え直さないといけない。現在は、旧町の中学校区の中で、一つのコミュニティ・スクールだからこそ、「地域で学校を支えよう」という意識があるが、これが市内で3校くらいにまとまっていったときに、果たしてそれを地域といえるかどうか課題となってくる。
委員	学校がまとまって、地域の規模が大きくなっていくと、コミュニティ・スクールにおいては課題が出てくるのではないかと、率直に感じた。
事務局	<p>適正規模・適正配置で話をしているが、ここで意見をまとめた後、方向性を決めていく上では、まちづくりの視点が必要だと思っている。どういうまちにしていけるか、その上で、どのように学校を配置していくか。そういった視点がないと、単に学校が集まるだけでは地域の未来が見えない。まちづくりと学校づくりは、切り離せないものである。</p> <p>ある方の言葉に、「これまでは“コミュニティ・スクール”だったけど、学校を統廃合していくと、その後は“スクール・コミュニティ”になる」ということがある。学校を核とした地域づくりが始まるという視点も、今後必要になってくると思う。</p>
副委員長	<p>松浦市にある松浦高校では、商工会や民間企業など、市内外から巻き込んでコミュニティ・スクールに力を入れてやっている。高校レベルでコミュニティ・スクールをやっているところを参考にしていくと、広域の在り方も見えてくると思う。そういったモデルを考えつつ、地域の人と先進地に視察に行ったり、教育委員会と一緒に研究したりしていくことで、まちづくりの観点が見えてくるだろう。</p> <p>学校を中心としたまちづくりの観点は、今後必ず出てくる。地域にとって、子どもたちは宝である。時代の移り変わりとともに、コミュニティの形も変わっていくべきだと考える。</p>
委員長	報告書全体を通して、構成や文言の修正等、ご意見ないか。
事務局	改めての確認であるが、報告書の構成について、「検討会で出た意見を報告する」という形から、「検討事項を追加し、方向性を示す」形に変更することについて、その点は問題ないか。

発言者	発言内容
委員	異議なし。
委員長	今回いただいたご意見を反映させ、最終的に報告書としてまとめる。また、今回出た修正以外で、修正が必要になった場合は、委員長に一任させてもらってよいか。
委員	異議なし。
事務局	<p>&lt;その他&gt;</p> <p>本日出た意見以外で、軽微な修正が必要になった場合は、委員長に一任いただく。それ以外で内容が大きく変わる場合は、委員の皆さんへ確認をさせてもらう。</p> <p>現在の予定では、2月中に報告書の修正を終わらせ、3月中旬には教育長へ提出できるようにしたい。教育長に報告書を提出した時点で、委員の皆さんの任期は終了となる。3月の定例教育委員会では、教育委員にも報告し、来年度からは基本方針の策定に向けて取り組んでいくこととなる。できれば、来年度中には基本方針を示したい。</p>
教育長	<教育長あいさつ>
委員長	<閉会>